

ちくさんスナップショット

平成 25 年 9 月 第 28 号 株式会社富士飼料

平成 25 年 2 月現在の採卵鶏の飼養戸数は、前年に比べ 160 戸(5.7%)減の 2,650 戸(平成 15 年は 4,340 戸)。規模別では 10 万羽以上層で戸数、羽数とも増加し、10 万羽以上層のシェアは戸数で 13.5%(前年 12.8%)、羽数で 68.8%(同 66.8%)となりました。つまり、「養鶏場の大規模化が進んでいる」という事が数字に表れています。

中小規模農場の今後の戦略は？大手と数量・値段で戦う事はできません。現在の取引先と更に太い絆を結びつつ、直売や加工品販売、後継者育成に注力しなければなりません。明るい未来は自ら創り出さなければなりません。

当社は後継者育成のお手伝いとして「若鶏会」を運営しています。若手養鶏家同士が情報交換・技術/知識向上する「場」をご提供しています。若い発想力と行動力で新しい畜産のカタチを模索・創造していきます。
【担当:二瓶洋一】

10-12 月配飼価格動向

10-12 月渡しの配飼価格は現時点(8/29)では「値下げ」となる見込みです。据え置きでも飼料安定基金の補てんが 2,700 円予定されています。補てん原資枯渇の状況を考えると、最低でも 2,700 円の値下げが必要とされています。それにより当該補てん金が 0 円となります。コーン価格は大豊作期待により下落していますが、大豆価格が思うように下がりず、為替事情と相まって 1,000~2,000 円前後の検討となっています。

13 年度の都府県の生乳生産コスト 6.2%上昇—流通飼料費が高騰

飼料の高騰が続いています。13 年度の都府県における生乳生産コストは、円安の進行、流通飼料費の高騰により 12 年度に比べて 6.2%上昇していると推計されています。(一般社団法人 J ミルク公表)

推計によると、都府県の全算入生産費は、搾乳牛 1 頭当たり 88 万 6 千円。そのうち、流通飼料費は 43 万 2 千円で、全算入生産費に占める割合は 48.7%と約半分を占めています。9 年前の 04 年度は流通飼料費が占める割合は約 4 割でした。現在は円安の進行や輸入粗飼料価格の高止まりを背景に、流通飼料費がさらに経営を圧迫。04 年度と比べると、21.5%も上昇しています。

弊社といたしましては、各メーカーと協力のもと、飼料体系、生産コストの見直し、飼料設計などのご相談もお受けいたします。また、生産者様目線での仕事を心掛け、提案していきたいと思えます。

【宮城県南養牛担当：佐藤研治】

牛用飼料 『リアルシリーズ』 販売好調！

中部飼料から牛用飼料『リアルシリーズ』が先日販売されて好評です。

スターターから育成までステージ毎の製品を用意しております。ビタミン類の強化やペプチドミネラルの採用により子牛の成長をサポート出来る設計になっています。しかも高タンパクなので子牛の腹作り、高増体に適した商品ではないでしょうか。

あのロングセラーになっている『カーフマンナ』を意識して作った商品との事でかなり期待されています。詳しい商品内容の説明は担当の営業まで！お待ちしております！！

【宮城県北養牛担当：斎藤勉】



若鶏会の「たまごキャンペーン」イベントは厚焼玉子・煮卵・バック卵で大盛況！たまごの美味しさをアピールできました！